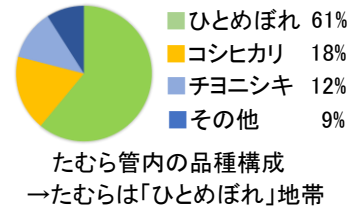
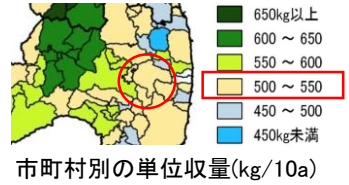


「里山のつぶ」を活用した産地化の推進 ～新しい時代を創る！「たむら」の米づくり～

県中農林事務所田村農業普及所

背景

- (1) たむら地域における水稲の平均収量は、県内の中でも低い水準
 - ・ 中山間特有の多様なほ場条件（日照条件、水管理等）により、同じ生産者でもほ場による収量差が大きい
- (2) 品種は「ひとめぼれ」に偏重し、規模拡大は困難な状況
 - ・ 標高が高く、気候が冷涼であることから、晩生品種や直播では収量が確保できない



経営安定のためには、品種構成の改善が急務

ねらい

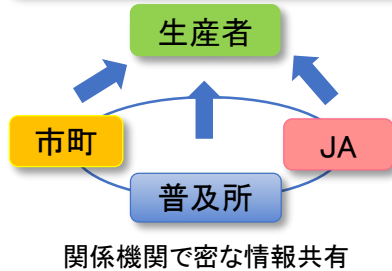
- ・ 収量増加による農業者の収入の向上
- ・ たむら地域における売れる米づくり

「里山のつぶ」導入

- ・ 「ひとめぼれ」と比較して、**出穂期は約3日、成熟期は約6日ほど早く迎える**
- ・ いもち病や冷害に強く、倒伏しにくく、「ひとめぼれ」と比較して**収量性に優れた品種**

- ・ 収量確保
- ・ 作期分散
- ・ 規模拡大

活動内容① 作付推進に向けた活動体制の構築



- ・ JAと連携し、H29に管内7カ所（180a）にて栽培、意見交換

- ・ **当地域に適していることを確認！**

「里山のつぶ」を地域の「顔」として育てていく意識を共有

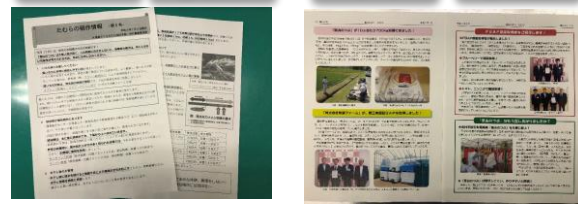
活動内容② 関係機関・団体と連携した作付推進活動

(1) 献穀米 (H30)



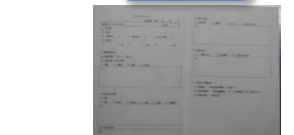
献穀米を契機とした地域への波及

(2) 情報提供 (稲作情報、普及だより)



収量向上・品質確保、種子注文時期に合わせたタイムリーな周知、販売面も意識した文章

(3) 規模拡大支援



今後、水稲の経営が5ha以上を見込まれる農業者をリストアップ、重点的に推進(R2～)

活動内容③ 増収に向けた現場の課題把握とその解決策

生産者(34名)にアンケート調査を実施(H30)

- ・ひとめぼれ 512kg/10a
- ・里山のつぶ 492kg/10a

収量が確保できなかった要因の解析

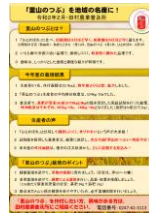
増収に向け、施肥水準の検討(R元)



- ・N6kg/10a (慣行)
- ・N8kg/10a (実証)

実証ほの設置

作付推進チラシへ反映(R2)



結果を周知

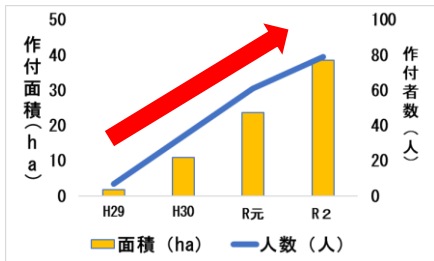
活動内容④ JA稲作部会と連携した売れる米づくりに向けた検討

- ・売れる米づくりに向けて、JA稲作部会に対し、ワークショップ及びアンケート調査を実施(H28)
- ・先進地視察研修を実施、売れる米づくりに向けて、検討を重ねる(H28~)

良食味米を生産へ!

活動成果

(1) 作付面積及び作付者数が拡大



図「里山のつぶ」作付面積及び作付者数の推移

作付面積

・1.8ha(H29)
→38.5ha(R2)

作付者数

・7名(H29)
→79名(R2)

(2) 収量確保に向けた施肥体系の確立

表 基肥N6kg/10a(慣行区)と基肥N8kg/10a(実証区)の比較(追肥は各N2kg/10a)
R1 田村農業普及所

| 試験区 | 精玄米重 (kg/a) | 整粒歩合 (%) | 玄米タンパク (%) | 食味値 | 味度値 | 想定される所得の慣行区との差額 (千円) |
|----------|-------------|----------|------------|------|------|----------------------|
| 慣行区(6-2) | 70.0 | 85.9 | 6.3 | 76.5 | 74.2 | - |
| 実証区(8-2) | 74.6 | 83.3 | 6.6 | 74.5 | 73.6 | +6 |

- ・**基肥の施肥量はN成分で8kg/10a+追肥N2kg(N6kg/10aと比較して品質・食味に大きな差はなし)**
- ・**肥料代等のコストを考慮しても、収量増加により収益は向上**



この施肥体系を導入した実際の事例(R2)

- ・A氏のケース
490kg/10a(慣行)→780kg/10a
 - ・B氏のケース
510kg/10a(慣行)→570kg/10a
- 収量が向上**

- ・献穀米の取組を受け、H法人が「里山のつぶ」を導入
- 規模拡大につながる**(H30と比較して、R2は+3ha)

(3) 売れる米づくりに向けた検討

- ・JA稲作部会主催で、**食味コンクールが開催**(H29~)
- ・**県オリジナル品種部門が創設され生産者の意識が向上**(R元)



今後の活動・方向性

- (1) 生産量拡大に向けたさらなる作付推進
 - ・経営規模に応じた「ひとめぼれ」との適切な作付割合の提示
- (2) 品質向上及び収量確保
 - ・斑点米カメムシ類防除の徹底、気象に左右されない米づくり支援
- (3) たむら地域における売れる米づくり
 - ・食味コンクールを契機とした部会の活性化

「里山のつぶ」導入を契機とした新たな「たむら米」のブランド化へ